

審議会等名	第3回 つくばみらい市介護保険事業計画等策定委員会 会議録	
開催日	令和5年8月9日（水）午後1時30分～午後3時00分	
開催場所	つくばみらい市役所伊奈庁舎3階大会議室	
出席者	【出席者】	浅川育世会長、小松崎八寿子委員、坂入教男副会長、沼尻和博委員、菊地広志委員、野村俊光委員、古舘千恵子委員、浅川昭一委員、東野幸代委員、豊島美智子委員、松本稔恵委員、飯田昌吾委員、渡邊千明委員
	【欠席者】	宮本瞳委員
	【事務局】 介護福祉課	草間保健福祉部長、八木課長、野澤課長補佐、根本係長、原田係長、山平主事
	【コンサルタント】	N e x t - i 株式会社さいたま支店 山口
傍聴者	0人	
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 協議事項 (1) 高齢福祉計画・第9期介護保険事業計画骨子（案）について ・課題の整理 ・基本的な計画の考え方 ・高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の構成 4 その他 (1) 新規参入希望事業所について (2) 今後のスケジュールについて 5 閉会	
会議資料	・会議次第 ・介護保険事業計画等策定委員名簿	

	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業計画等策定委員席次表 ・介護保険事業計画等策定等策定委員会要綱 ・第9期介護保険事業（支援）計画の基本指針のポイント ・高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画策定スケジュール ・資料1 他保険者との比較 ・資料2 高齢者を取り巻く主な課題の整理 ・資料3 計画の基本的な考え方 ・資料4 高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画骨子（案）検討表 ・参考資料 高齢者実態調査の概要について
議 案	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢福祉計画・第9期介護保険事業計画骨子（案）について <ul style="list-style-type: none"> ・課題の整理 ・基本的な計画の考え方 ・高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の構成 2. その他
議案概要	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 午前1時30分 ・会長あいさつ 浅川会長 ・議案1について 高齢福祉計画・第9期介護保険事業計画骨子（案）について、事務局より説明。 <p><質疑応答></p> <p>浅川会長：参考資料の23ページで誤植がある。「利殖」ではなく「離職」に修正をお願いしたい。また、課題の中で地域包括支援センターの認知度が上がってこないことに対して情報をいかに出していくか検討が必要。地域包括支援センターが初めての相談窓口となるので、その相談窓口に来られない方へのアウトリーチ型の支援が必要となる。アウトリーチ型の支援はどの基本目標に位置付けられるか。</p> <p>事務局：誤植は修正する。地域包括支援センターでは、ブラン</p>

チとしての総合相談窓口を特別養護老人ホームの事業所において実施している。独居世帯や高齢者世帯向けに定期的に訪問するなどアプローチしている。福祉票が渡されていない方など実態把握をしているが、まだまだ漏れている方もいるため、来年度以降も充実が必要。基本目標3の包摂的な相談支援体制の整備で盛り込んでやっていきたい。

野村委員：福祉票について、昔は65歳になった時点で民生委員が訪問するようにしていたが対象者が多くなり対処しきれなくなっている。そのため、現在は、事情があったり、高齢の方を中心に福祉票を勧めに行っている。

浅川会長：65歳以上を高齢者と定義づけしているが、一括りにするのは難しい。民生委員の方も大変。介護が必要になる前に早期に発見していける体制が必要。

小松崎委員：独居の方は把握しやすい。一方で家族といえるけれど、普段はほとんど仕事などで外出していて食事を一緒にしないなどといった家庭が多く、日中独居になってしまい、高齢者の状態が把握できず悪化してしまうケースが見受けられる。そういった家庭への支援も必要。

事務局：ご意見を参考にさせていただき取り組みを検討させていただきたい。

浅川会長：認知症について、軽度認知障害（MCI）などの方への支援や早期発見などの取り組みについてはどこあたりに位置付けられるか。

事務局：基本目標3の（1）認知症施策の総合的な推進内で、国の指針とともに盛り込んでいけたらと考えている。

小松崎委員：軽度や若年の認知症の方の行き場所がない。デイサービスは中度・高度の方や高齢の方を見ている。軽度

	<p>や若年の認知症の方が定期的に行けたり・集まれる場所などがあるとよいと思う。</p> <p>事務局：軽度や若年の方はデイサービスなどにつながったとしても自分の居場所じゃないと感じてしまい行かなくなり、家で過ごしているうちに悪くなってしまうケースも見受けられる。最近は認知症に困っているという相談より、認知症があるという前提でさらに困りごとがあるなどの事例が増えてきている。認知症の方が地域で多くなっている実感があるため、認知症にやさしい地域づくりは、認知症でなくても高齢者のみなさんが住みやすい地域づくりにつながってくると考えているため、計画に盛り込んでいきたい。</p> <p>菊地委員：独居高齢者が増えてきていて、その中でも身寄りのない高齢者への介護保険サービスの受け入れが課題かなと感じている。そのあたりはどこに含まれるか。</p> <p>事務局：身寄りのない方の問題については高齢福祉課でも苦慮する事例が多くなっている。基本目標3（4）権利擁護の推進の中で考えていきたい。他課で策定している地域福祉計画と整合性を図りながら仕組みなどを考えていきたい。</p> <p>松本委員：先ほどの軽度認知症の方の受け皿となる場所として、ボランティアがかかるがもカフェやオレンジカフェなどを実施しているので、そのようなところを宣伝したり、つなげることができれば良いと思う。</p> <p>事務局：かるがもカフェ、みらいコミュニティスペースなどがある。ただ、場所があるが周知の問題や場所の問題があったりする。情報発信を含めて新たに場所が必要なかなど踏まえて検討していきたい。</p>
--	---

	<p>沼尻委員：資料2 2ページ (3) 地域における支えあいの充実の中で、移送サービスが挙げられているが、こちらは基本目標2 (4) ボランティア活動の支援と参加促進に向けた取組内で、地域の支えあいとしてインフォーマルで考えていくのか、フォーマルで考えていくのか。</p> <p>事務局：基本目標2 (4) ボランティア活動の支援と参加促進については、ボランティアポイントなどの取り組みなどが含まれる。今後移送サービスについては、仕組みなど検討していく必要がある。そこを地域の支えあいなどでできればいいなと個人的には感じている。実際、生活支援体制整備事業の協議体の中でも議題にあがってきている。そこは実現できるかはまだわからないが、先進事例をみつつ、本市でできる体制が見つかるかと思っている。</p> <p>東野委員：軽度や若年性の認知症は体が元気な方が多い。そういった方が支援を受けながらボランティアとして活躍して生きがいづくりにつなげる場があるとよい。</p> <p>事務局：第8期計画の評価の中で、国の示している点検ツールを活用している。介護福祉課や地域包括支援センターや関係団体と話し合いながら評価をしている。その中で、認知症の方でも持っている技術を生かして活躍できる場などがあればという声もあった。どこからやっていけるかはわからないが、一緒にやっていけたらと思う。</p> <p>菊地委員：資料1の中で、在宅サービスより施設サービスの一人当たりの給付費が高いというのには驚いた。今後サービスの見込みについて、どのような方向性で考えているか。</p>
--	--

事務局：国の示している在宅サービスの充実は今後も必要だと考えられる。各事業所とのヒアリングの中で、施設サービスの整備による充実という形ではなく、いかに住み慣れた地域ですごせるように在宅サービスを利用し、状態が悪化した場合、施設サービスが受け皿として見込んでいくことになる。今後、利用状況を踏まえながら見込みを考えていくようになるので、次回の会議以降示していきたい。

古舘委員：いろいろなサービスがあったとしても、本人が出向いていくという意思がないと成り立たない。出ていきたいけど、足がない、友達がいないという問題があるので、問題に対して踏み込んだ相談体制が必要だと感じた。相談でも、世間話から始まって、家庭の話題など踏み込んだ話などを聞くなど寄り添った支援が必要。

豊島委員：高年クラブに参加している方でも軽度認知症の方がいる。地域の方になるべく参加できるように連れてきてということを奨励している。私の身の回りにもいて、私が出かけるときも必ず声をかけていく。認知症は家族の協力が必要。高年クラブとしては、なるべく行事に参加してもらえるように周りからの声掛けを働きかけている。

浅川会長：非常に大切な支援だと感じる。市としてはそういったボランティアへの支援の充実が必要になってくる。

古舘委員：間に入っていくという本人の意思がある方は、友達につながっていく。ようするに孤立していく人をどのように引っ張り出していくのが問題だと思う。まずは交通手段を考えていただきたい。認知症の判定の方法はどのようにやっているか。

	<p>小松崎委員：病院に来ていただかないとわからない。家族が心配だということで家族が連れてきていただくことが大切。こちらが赴いて検査するというのではない。検査についても友達が連れてきたこともあるが、家族の同意が必要。検査の結果というよりも日々の生活の状況などをみてみないと判断はできない。</p> <p>古舘委員：教習所でやっているようなテストなどがあればよい。社協としてもできればと思う。</p> <p>浅川委員：調査研究ができればと思う。</p> <p>浅川会長：場所に出てこられない方への支援の構築が必要というご意見だった。第8期計画で新たな取り組みで買い物支援などがあったが、取り組み状況など教えていただけたらと思う。</p> <p>浅川委員：利用者は一定数いるが、認知度は低い。一部の方しか助けられないのが現状。担い手も少なくなっている。移動サービスをやっているが高齢者の免許の返納などもあり、なり手がいない。定年が伸びたことで60歳からやってくれるボランティアが少ない。</p> <p>浅川委員：ケアマネ不足が問題になっている。ケアマネの育成や発掘などは計画で位置付けないのか。</p> <p>事務局：ケアマネの育成は他の自治体で取り組んでいるところはない。初任者研修で介護職員の育成というところが多いが、それもうまくいっていないのが現状。計画に位置付けられるかは今後検討していきたい。</p> <p>浅川委員：このような問題はどこにぶつけたらいいのか。</p> <p>浅川会長：県のケアマネ協会でも同様の問題を抱えている。そういったところから議会へ提議されている。</p>
--	---

<p>浅川会長：人員不足の部分で触れているが各施設長はいかがか。</p> <p>坂入副会長：国でも ICT の活用やロボットへの補助金など支援をしている。事業所でも記録の電子化をしたり、ベッドにセンサーを付けて、認知症高齢者の動きを把握したりしている。ICT などの活用もあるが人材の不足については問題だと感じる。</p> <p>沼尻委員：年配の職員が多いのでパソコンなどに慣れていく必要がある。リフトもあるが、人がやった方が早いよねということもある。一進一退で進めている。</p> <p>浅川会長：人材の確保として現実的にどのようなことに取り組んでいったらよいかご意見をいただければと思う。</p> <p>菊地委員：やめないようにするために常に考えている。福祉関係はやりたいという人が働いていることが多いが、人間関係や負担などでやめてしまうことも多い。先日外国人の方を雇用した、とても熱心な方で外国人雇用の活用などの取り組みも必要だなと改めて感じた。</p> <p>・議案 2 について</p> <p>新規参入希望事業所について、事務局より説明。</p> <p>浅川会長：小規模多機能は市内に何カ所あるのか。</p> <p>事務局：市内に 1 カ所ある。</p> <p>・今後のスケジュールについて</p> <p>・次回は、令和 5 年 11 月に開催予定。日程が決定次第、通知する。</p> <p>・閉会 午後 3 時 0 0 分</p>
